

【日 時】令和2年9月8日（火）午後2時30分～

【場 所】生駒市役所 4階 401・402 会議室

【参加者】花嶋 温子座長、河瀬 玲奈、黒部 實、清水 綾、藤田 照子、上武 敏一、坂本 剛伸、山下 博史、林 光子、築地 明子

【欠 席】樽井 雅美、佐藤 聡仁

【事務局】岡田市民部長、奥田環境保全課長、木戸課長補佐、千葉係長、山下係員、河島所長
地域計画建築研究所 伊藤

1. 開会

部長挨拶

傍聴者確認 4名

資料確認

2. 案件

（1）現行計画の評価について

座長より事務局に案件（1）の説明を依頼

資料1－1 現行計画の評価について、資料1－2 生駒市燃えるごみ組成調査結果について、事務局より説明

参加者 ごみ減量市民会議から来ている。

ごみ半減プランの評価について、概要でなく評価を作るのではないか。イメージしていた評価と全く違う。前回、まずは評価が必要であるという意見が多かった。本日の議題に上がっているのではないか。

まず、現行計画の10年間やってきた取組の整理した上で、3つの側面から評価すべきである。一つ目は計画の目標値に対して何をして実績はどうだったのか。二つ目はこの半減プランを進めていくにおいて進行管理はどうしたのか。三つ目はこの計画の目標値の設定は適正であったか。これら3つの側面からの評価を期待していた。

今回、半減プランでは基本計画の位置づけを明確にするべきではないか。上位計画として、生駒市総合計画、その横に環境基本計画があり、その下に下位計画として一般廃棄物処理基本計画がある。

半減プランでの目標値の前提が70%削減できるとなっている。そこに達成すると半減できるとなっている。10年間やってきて70%というのは机上の数値であると思っている。なぜなら、ごみ減量の取組は生駒市の全住民が対象であるので、2・6・2の原理が働く。下位2割は絶対分別しない。また、燃えるごみ中にプラスチック製容器包装が6%含まれるが、そこには汚れたものも含まれている。

新聞もごみをくるむために用いたり、目隠し用もある。これらすべてが資源化できるとは思えない。それに対してどのように考えるのか。

次に、本日の資料について質問させていただく。まず、資料1のp.2の焼却量、ごみの発生量とあるが、これは何を示すのか。

事務局 ごみ排出量、発生量には事業系ごみが含まれている。

参加者 資源ごみの集団資源回収とはどこに入っているのか。
行政回収はどこに入るのか。

事務局 全体の排出量に集団資源回収も行政回収も入っている。
排出量の削減が進まなかった理由として、集団資源回収の量が増えなかったとの記載について見直す。

参加者 排出量が減らなかったのは集団資源回収量が増えなかったという記載がおかしい。2・6・2の2割の結果でもある。ごみ発生量と資源化量、資源化率についての記載を整理していただきたい。

また、重点以外の個別の施策の評価が必要ではないか。

次に、資料1のp.3①に「ごみ減量市民会議」がなぜ入っているのか。重点施策の「もったいない運動」は食品ロスの取組が該当するのではないか。ごみ減量市民会議はもったいない運動だけでなく、市内のごみ減量について横断的に活動・提案してきた。リユースは個別施策に書いている。食品ロスは、エコクッキングやフードドライブをやったが、記載されていない。個別施策の分析がされていない。

p.6の、行政施策についてであるが、行政回収、雑がみ等、初めて聞く言葉が多い。生駒市では雑紙とは呼ばず、ミックスペーパーと呼んでいる。両方の表記が混在している。粗大ごみという表現が生駒市ではされていない。生駒市で使っている言葉に統一をしていただきたい。

資源回収と集団資源回収についても同じである。集団資源回収をやっていない地域もある。

このように、数値が適正だったか評価がないと目標がまた机上論になる。

家庭ごみ有料制導入についてであるが、市がどのくらい労力を費やしたのか。有料化の検討委員会が平成24年からあった。10年の内、4年を費やしたが、お金に直結することでもあり、まだ、賛否があるのはそのあたりに課題があったのではないか。生駒市における有料化導入の効果は12-13%減であった。そのようなことを書いていかなければならないのではないか。また、財源をどう活用したのかも書くべきである。

p.7の⑤バイオマスについて、いつ検討したのか。半減プラン作成時にエコパー

ク 21 を改修しないと半減できないという話をしていた。エコパーク 21 の改修を実施しないと決まったら、ごみの半減はできないので、その際、目標値を変える必要があったのではないか。

p. 10 の 4 総評が大切である。次期プランへの引継ぎであり、現行の反省から課題を見つける必要がある。

アンケート結果で、「ごみは減った」という回答が増えているが、ごみ袋の容積が減ったからであろう。しかし、重量が減ったかが重要である。市民は容量で判断している、そのあたりの市民感覚も次の計画では入れていくべきではないか。

10 年やって分かったのは、生駒市はごみ袋透明化や分別、家庭ごみ有料化などの施策に取り組んできたので素晴らしい。

施策に取り組むと次年度のごみは減る。生駒市ではリバウンドが起こると言われたがリバウンドは起きていない。それは生駒市の市民が素晴らしいからである。しかし、次の施策に取り組まないとこれ以上ごみは減らない。

座長 ありがとうございます。次の計画を作るのに、有益な話がたくさんあった。事務局に現行計画の作成に携わった人はいないので、今の意見を次に活かしていただきたい。

事務局 この 10 年の反省点としては、PDCA サイクルを行っていない点である。次期計画では PDCA サイクルによる計画の進行管理を行う。

参加者 生ごみを減らすという目標のために、キエーロを何台導入する必要があるか等は、算出しているのか。

事務局 必要台数の算出はしていない。

参加者 キエーロは啓蒙のツールである。生ごみは一番減らしにくいものである。エコパーク 21 のような施設で生ごみを対応していかなければ、実際には減っていかないとされる。

参加者 エコパーク 21 に 3 日前の生ごみを持っていくと考えると実現は厳しい。それも、事業系には有効だが家庭系は難しいのでそのあたりも考えていく必要がある。

参加者 市民レベルで考えると難しい、肌で感じることが一番大切。半減プランもほとんどの人は知らない。懇談会を行っていることすら知らない。回数も少なく、市民に浸透していないのが一番の課題ではないか。
噛み砕いて話せるという所までいかないと、細かい啓発運動が必要である。

参加者 集団資源回収が厳しい状況なので、それも踏まえて検討いただきたい。

(2) アンケート調査結果について

座長より事務局に案件(2)の説明を依頼

資料2-1 「ごみに対することについて」アンケート、資料2-2 「ごみに対することについて」アンケート調査結果、資料2-3 ごみ減量化・リサイクルに関する事業所アンケート、資料2-4 ごみ減量化・リサイクルに関する事業所アンケート調査結果について、事務局より説明

参加者 前回の懇話会で過去にもアンケートがあった場合はそれらも活用するという話であった。過去のアンケートとの比較できるような工夫はされたか。

事務局 策定に関するアンケートは実施していないので反映していない。

参加者 生駒市はごみ半減プランを作成してから、平成23年と平成25年の2回アンケートを実施している。2回目は主には有料化の導入について、過去のアンケートと紐づけてアンケートを実施していた。アンケートは今回で3回目である。

また、ごみ減量市民会議では対面で2、3の回答項目から選べる市民アンケートを継続して行っている。

過去のアンケートと比較できるはず。前回のアンケートとかなりの項目について、比較し、傾向を見ることはできる。

座長 前回の懇話会で、過去のアンケートと比較について、このような話をしたのではないか。

事務局 計画についてのアンケートは次の10年後つながるようなアンケートとした。計画を策定する際には、過去のアンケートも活かしたい。

参加者 懇話会で決めた話は守ってもらいたい。半減プランを知っていますか、という質問をどうして外したのか。過去のアンケートでは聞いている。

事務局 アンケートの調査票は、事前に委員に諮ったうえで実施させていただいた。

参加者 確報版の際には、過去のアンケートと比較していただきたい。5Rについても、今後どうしていくのか、という視点で作成していただきたい。

今後10年のPDCAサイクルの土台になるものが今回のまとめになる。

参加者 回答していただいた方の、年代の平均値は出しているのか。世帯と年代の平均値をお聞きしたい。

座長 平均値はあまり重要ではない。出せるがあまり意味がないと思われる。

参加者 30 リットルのごみ袋にミックスペーパー入れている例もある。
20代30代の方がちゃんと分別しているか、気になる。

座長 いつも若い方が悪いと言われるが、そうでもない場合もある。一方でアンケートでは若い人の回答数も少ない。

事務局 年代別のクロス集計もこれから実施していく。

参加者 確かに若い人の回答は少ないので、アンケートは大まかな目安の資料になるだろう。

参加者 アンケート結果 p. 7 の問 18 の住まいの形態に「一戸建て住宅」77.5%となっている。割合が正しいか。今後の10年を考えていく、施策を展開していく際のターゲット、対象を決めていくことが重要ではないか。例えば、共同住宅のごみの出し方がよく分からない点も多い。

ごみ量は、コロナ禍であまり意識していないが外食しなくなり、個人としては増えている。プラごみも1週間に1袋でおさまらなくなっている。

参加者 アンケートの無作為抽出の男女比は。

事務局 性別は今回のアンケートでは聞いていない。

参加者 回答者は主婦の女性が答える場合と男性が答える場合で、回答が違ってくるともあると思われるので、今回は取っていないのかお伺いした。

参加者 男性か女性かを聞くと別の問題も出てくる。最近は不法投棄の問題も多くなってきている。コロナの影響で、自粛生活で家の整理をして普段分別をしていない人が、布団などを出される。

回収業者の話によると5月前後のごみや不法投棄が増えて、現在は通常通りと聞いている。

座長 今後のコロナの状況によって、どのようになっていくか分からない。

事務局 いただいたご意見は、次回以降、施策体系等の中に反映していく。

座長 記録をしっかりと残していくことが大切。現行計画の評価は修正いただきたい。

事務局 議事録とともに修正版を送付する。

<追加資料3配布・事務局より資料3について説明>

参加者 ポイ捨て、不法投棄の対策、目標もどこかに入れてほしい。

事務局 ポイ捨てや不法投棄は本計画の対象である。今後、施策の中に反映していく。目標数値を出せるかは現時点では分からない。

座長 重点施策案について、何か意見があれば。

参加者 生駒市はゼロカーボンシティと宣言しているので、色々と制約があり、今回かなり厳しい計画づくりになると思われる。
2050年の目標年度に温室効果ガス実質排出量が0だと、ごみも0になってくるので、その辺りについても数値も含めて整合性の整理を行いつつ目標の妥当性を議論していく必要がある。

参加者 持続可能な社会というのがポイントではないか。施策も続けられないと意味がない。

座長 前回のごみ半減プランであったが、今回はぼちぼちやっていこうということしか書かれていない。

参加者 出来ることをやっていくべきではないか。

座長 ごみについては、生ごみ、紙もカーボンニュートラルである。温室効果ガスの排出にかかわるものは、プラスチックごみの焼却である。

事務局 今後10年間、PDCAサイクルを評価していく上で、どこまで数値にして評価していくのかというのは、なかなか難しい面もある。

座長 ゼロカーボンシティであることによる制約というのは、何かあるか。

事務局 特別にこの計画に対してというのは無いが、当然、ごみを燃やすとCO2が出て

くるので、その辺りをどのように考えていくのか。温室効果ガス実質排出量0というのは、燃やさないということではない。

参加者 向こう10年で生駒市の目標値が達成出来たら良いということであるが、できる政策にしておくべきである。

事務局 今後、引き続き考えさせていただきたい。

座長 基本理念については事務局案であるか。ご意見があればお願いします。

事務局 事務局案である。提案させていただいて、それについてご議論いただいて、そこを直していくという形を取りたい。

座長 この会議終了後も何日間かご意見をいただく時間をいただきたい。

事務局 メール等による意見集約の期間を設ける。

座長 そのためにも、今ここで、基本理念と基本方針の所で何かご意見があれば、聞かせていただきたい。

参加者 「質の高い循環システム」とは具体的にどのようなことか。

事務局 出されるごみは材料として使っていくことになるので、5Rというのは生駒市独自の目標、5Rをすることによって質の高い循環システムをする。
表現は見直しさせていただく。

座長 言葉が多くて分かりにくい。綺麗な言葉は並んでいるが、具体的に何なのか分かりにくい。

参加者 市民に何をしてください、行政は何をするのかが分かってくれば、この言葉が腑に落ちて分かってくるかもしれない。順序が逆ではないか。

事務局 市民の役割、事業者の役割、行政の役割は、今後示すが、まずはテーマが必要となっている。

参加者 例えば、ゼロカーボンと言ったときに、行政が全戸に生ごみ処理機を配布はできない。綺麗な文章が並んでいるだけとしか言いようがない。

参加者 誰一人残さないは、いったいどこから出てきたのか。

事務局 これは、SDGs の目標で、生駒市は SDGs 未来都市に選定された。

参加者 例えば、出来なかった事に対する他の市町村で成功事例はないか。

座長 結果として減っているかは別として、生駒市は色々出来ている。
有料化の宣言をしても出来ない例も多い。現在の計画の目標である半減はできていないので、出来てない印象があるかもしれないが、有料化については、生駒市は導入できている。

参加者 生ごみが解決できないと半減は無理であろう。やってきていること、ちゃんとやってきたことの成果も示さないといけないうらう。

参加者 以前、長野県飯田市に見学に行ったら、生ごみ回収スポットがあった。
そういったことをする気があるのか、無いのかによって変わってくる。

事務局 飯田市の例は知っているが、お金に直結する部分については、なかなか難しい面もある。

参加者 生駒市は、「住民頑張るな」「ボランティア頑張るな」が好きなようだ。

参加者 100 の複合型コミュニティは、結果としてどういうものか分かってきたのか。
実施したことでごみは減ったのか。

事務局 その説明については、配布資料は無いが準備している。
今年度も実施予定である。今回は、ごみはあくまで切り口でコミュニティを作ることが目標である。

座長 基本理念、基本方針について他にないか。

参加者 評価が無い中では判断できない。きちんと評価した中だと議論ができるが、情報共有ができていない。恐らく、半減プランで出来ていない、40%を占める生ごみ対策をしないとけないという流れが想定されるが、そのための打つべき政策の提案をしていない。政策を実施すればごみは減る。

事務局 それは次の施策の中で検討していく。また、ご意見をいただきたい。

座長 生ごみの件も含めて、みなさんのご意見やご提案を、期日を決めて、本日、閉会後も教えていただきたい。意見は、いつまでに市に送れば良いか。

参加者 市のスケジュールを先に示して欲しい。

事務局 スケジュールは前回示した。あと3回の懇話会で素案を作りたい。

参加者 それならば、今日はこの議論でここまで話し合う、と次第に反映すべきである。当日、急に追加資料を出されて、それで時間が無いと言われても困る。

座長 それでは、本日から1週間以内程度を目途に、ご意見をいただき、それらのご意見を丸めずにみなさんに返していただきまして、それらを踏まえて、次回、引き続きご議論いただきたい。

資料3や連絡方法について知らせていただきたい。

事務局 名刺を再度配らせていただくので、そちらのメールに連絡をお願いしたい。

(3) 次回日程について

座長より事務局に案件(3)の説明を依頼

次回日程について、事務局より説明

事務局 次回は10月14日(水) AM10:00からである。
場所等詳細については、後日、文書にてお知らせする。
メールでの回答については、来週9月18日までをお願いしたい。

3. その他

特になし

以上